

医療ニーズの変化

医療従事者の働き方改革

新興感染症への備え

医療従事者の確保

これらの課題に的確に対応するために

新たな地域医療構想の概要

■ 目指すべき医療提供体制の方向性

全ての地域・世代の患者が、適切に医療・介護を受けながら生活し、必要に応じて入院し、日常生活に戻ることができ、同時に、医療従事者も持続可能な働き方を確保できる。

■ 目指すべき姿の実現に向けた取り組みの大枠の方向性

- 1 地域の患者・要介護者を支えられる地域全体を俯瞰した構想
高齢者救急や在宅医療等の医療・介護需要の増大等、2040年頃を見据えた課題に対応するため、入院に限らず医療提供体制全体を対象とした地域医療構想を策定
- 2 連携・再編・集約化をイメージできる医療機関機能に着目した医療提供体制の構築
「病床機能」の分化・連携に加え、「医療機関機能（高齢者救急の受入、在宅医療の提供、救急・急性期の医療提供等）」に着目し、地域の实情に応じて「治す医療」を担う医療機関と「治し支える医療」を担う医療機関の役割分担を明確化
＜医療機関機能の名称と定義＞
 - (1) 高齢者救急・地域急性期機能
高齢者の救急患者や軽症～中等症の急性期患者に対応
 - (2) 在宅医療等連携機能
在宅医療・介護と医療機関を繋ぐ機能
 - (3) 急性期拠点機能
高度急性期患者や重症患者に対応する中心的な施設
 - (4) 専門等機能
特定の疾患や診療領域に特化した高度な医療
 - (5) 医育及び広域診療機能
医学生教育・研修、臨床研修医の育成
- 3 限られたマンパワーにおけるより効率的な医療提供の実現
医療DXや働き方改革の取組、地域の医療・介護の連携強化等を通じて生産性を向上させ、持続可能な医療提供体制モデルを確立

長野県の医療提供体制のグランドデザイン

■ 目指すべき医療提供体制の方向性

有事・平時を問わず、誰もが高度・専門医療から在宅医療まで、自身の病状に合った質の高い医療を切れ目なく受けることができ、安心して暮らすことができる医療提供体制の構築

■ 目指すべき姿の実現に向けた取り組みの大枠の方向性

- 1 更なる役割分担と連携の推進
 - (1) 入院医療体制
これまでの「病床機能」だけでなく「病院機能」にも焦点を置き、病院を「地域型病院」と「広域型病院」に類型化し、役割分担と連携を推進
[地域型病院]
増加が見込まれる高齢者疾患を中心に、地域包括ケア体制の要となる機能（地域密着型）や、平日の二次救急患者や休日・夜間の救急患者を受け入れる機能（地域密着型）等を担う病院
[広域型病院]
高度・専門医療を中心に担い、医療資源を集約するとともに地域型病院に対する診療支援（医師派遣、遠隔診療等）を実施する病院
 - (2) 在宅医療体制
診療所や地域型病院（地域密着型）が中心となり、ICT等を積極的に活用し連携体制を強化
 - (3) 外来医療体制
「かかりつけ医療機能を担う医療機関」と「紹介患者を中心に診る医療機関」による役割分担を推進
- 2 関係者が果たすべき役割の明確化
県、市町村、医療関係者、県民の役割を明確化し、2040年を含む中長期を見据えた医療提供体制を実現